

(1) 単元名： 風やゴムのはたらき

(2) 本時の目標： 風やゴムの力を利用したよく走る車の作り方を考え、自分の考えを表現することができる。

佐手小3年。3名が25年に入っての転入生である。男の子2人が24年度の3学期から、女の子1名は4月からの転入生である。授業者の玉城先生は、25年度4月から教頭不在の教務主任として3年生の理科を担当している。玉城先生は、ぜひこの3名の3年生で「学びの授業」に挑戦したいという希望があった。



右写真は、授業に入る前の実に和やかな雰囲気のおしゃべりタイムである。

☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。

【授業開始】



デジタルテレビで前時までの想起と本時の学習課題の把握までつなげる。みんな「語る」である。教師の穏やかな表情が子ども達を安心させている。

5月の終末頃まで、3名とも「分からない」ことの依存ができないで、固まっている状況がほとんどであったという。教師は本時を迎えるにあたって、意図的に「聴き合う」「訊き合う」を徹底的に意識して授業を進めてきたと言う。しかし、まだ教師を通して「訊く」が多いようだ。教師のあえての挑戦である。実に個性のはっきりしている3年生だが、「学び合う授業」の創造に教師の妥協は感じない。



5:00~20:00【本時の課題は1つ。いきなりのジャンプ課題と設定した】◎ 「もっとよく走る車をつくろう。」
どのように工夫したら車のパワーをアップさせ、坂道を登りきることができるか？



写真①



写真②



写真③

互いの考えが交わされる。写真①、まず自分で予想を立て。写真②、モデルの車を使って各々が仲間に説明する。写真③、お互いの考えをすり合わせて、実際に作製する。



25:00 ~ 【いよいよ実験】

まずは、ゴムの力を工夫して挑戦である。ここにも個性がある。たどたどしい作業風景があった。しかし、それは大人の目線で見ただけの子どもの姿であって、子ども同士では、仲間のたどたどしい作業も別に気にしていない様子だった。緊張の一瞬。しかし、実験結果は失敗であった。



ここで新たな「なぜ、どうしよう」が生まれた瞬間でもある。

26:00 ~ 【新たな工夫】 失敗から新たな「学びの必然性」が生まれる。



ゴムだけの工夫ではできなかった。今度は、風の利用することになった。車に帆をつけて扇風機で風を送ればもっと力強く走れるようになる。まだ、子ども同士だけで語り合い解決までに至らない様子である。教師は単的な質問を投げて「学び」を促そうとするが・・・むつかしい！やはり教師に向けられて語られている。



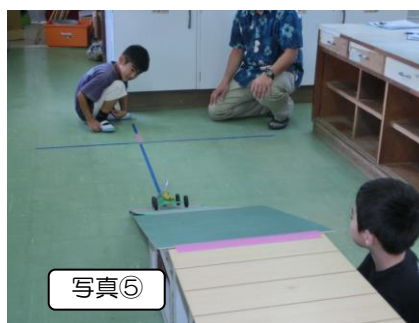
27:00 ~ 帆をつけ風を送る実験・・・またまた失敗

29:00 【再び新たな工夫】 発射ゴムの威力を強くする。この段階で授業はかなり盛り上がる。



教師の「学び合い」を促す姿が目につく、教師自身に語られる子どもの声を、何度も仲間に向けて語らせようとする行為が見られた。3名とも、教師の単発の発問によく応じて対話が成立している。しかし、さすがにまだ3年生である。教師に認められたい、先生に聴いてもらいたいが3名からひしひしと伝わってきた。それでも教師は妥協せず「互いの学び合い」に繋ごうと心がけていた。実験途中から女の子は「先生の答えは？」を連発する。先生は知っているから先生に認められる答えを出したかった。互いに学び合う授業において、「互いに分かり合う」の学びの快樂を経験させたい。

29:30 写真④、発射ゴムの工夫を説明する海人さん。写真⑤いよいよ3度目の挑戦である。



最初、真央さんが発射をやりたがっていたので2人は真央さんに譲った、しかし発射の段階で失敗してしまう。この事実が笑顔でゆるされた。なんていい関係なんだろう。その後、海人さんが実験の発射を担当したなんと坂道を登り切ってしまったのだ・・・教師も苦笑い。「できるはずじゃなかったのに」

【 学び合いに不慣れな仲間を「つなぎ」「語らせる」教師 】



「学び合い」に不慣れであることにはいろんな要因が考えられるが、教師の技術はそれを超えられる。本日の授業で、S先生の「子ども達に語らせたい」思いや、「仲間につなごう」とする行為がたくさん見受けられた。授業終盤の教師の「語り」は見事である。これから先がほんとに期待できる3年生である。

【参観者：北國小職員より】

- ・真央さんに気遣う二人の姿がよく見られた。3名の表情がとってもいい。
- ・教師の隣で安心して授業に参加している。3名の協力の関係ができています。
- ・子ども達は自然体で授業に臨み、自分の思いや考えを出し合ってよく聴き合っていました。

S先生ありがとうございました。教室にはいろんな仲間がいていろんな学習環境が形成される。この3名にはこの3名でしか創り出せない空気がある。あせらず、ゆっくり楽しくやっていきましょう。研究協議もよかったです。みんな「学び」の視点が定着してきました。本日何よりもS先生の教材研究の話に感銘を受けました。



国頭学びの会ゆい